

ス・ドイツ・アメリカで製造されたオルゴールが展示されています。

平成14年4月、この博物館の協力を得て、「アンティーク・オルゴールの音色に包まれて美しい愛の旋律が2人を祝福」をコンセプトに、「アルスベル・オルゴールのシビルウェディング」を企画しました。

その4月に、本間直人さんと森谷美里さんから、心に安らぎを与えるオルゴールの優しく美しい音色に包まれながら結婚式をしたいという希望がありました。

そして、彼らが第1号申込者になりました。

式はクリスマスに近い12月22日。式場は、ステージがあり、オルゴール・自動ピアノ・自動オルガンなどが展示されている第2展示室を使用することになりました。

新郎新婦入場・指輪交換・誓約書署名・祝奏・新郎新婦退場などのすべてのバックグラウンド・ミュージックをオルゴール演奏と自動パイプオル

ガン演奏とし、指輪交換時にはオルゴールの『星に願いを』を使用して、それを結婚記念の「誓いのオルゴール」

として贈呈することにしました。

ウェディング・ミニスターの祝詞は、「直人さん、美里さん、おめでとうございます。オルゴールは、愛と平和の象徴とされています。オルゴールの美しい音色の中でお2人は夫婦として結ばれました。(中略)今回贈呈いたします誓いのオルゴールを開けるたびに、今日の輝きを思い出されますように。そして、歴史を重ねてきたオルゴールのように、お互いの大切なパートナーとして愛に満ちた幸せな歳月を重ね、清らかなハーモニーを奏でる人生を送られることを心からお祈りいたします」

一般入館者のための演奏時間の合間をぬって行う会場設営と挙式というきついスケジュールでしたが、コンセプトの狙い通りの式となり、2人はもちろん両親や参列者のみなさんはとても感動された様子でした。

先日、私は8年ぶりに2人に会いました。

本間夫妻には、すでに5才と1才の娘さんがいて、幸せな家庭を築いていると拝見しました。夫妻から、毎年、結婚記念日に家族でオルゴール博物館へ行っていると聞かされました。また、「誓いのオルゴール」は、小さいころから娘さんに聞かせていたようで

す。最近では、彼女自身で操作ができるようになり、毎日のように1人で聞いているとのことでした。

この企画は、事情があり取り扱いをやめたため、私にとって、ただ一度のオルゴール館でのシビルウェディングとなった、思い出深い挙式です。

また本間夫妻がオルゴール博物館での結婚式を大切な思い出とされ、幸せに暮らしていることは司式者にとっても嬉しいことです。



シビルウェディング・  
ミニスター

伊藤健司氏

(いとう・けんじ) 1940年山形県生まれ。2000年シビルウェディング・ミニスターの資格を取得。これまでに230組の挙式を司る。



▲自動パイプオルガン、オルゴールの音色に包まれて

山形県天童市に「アルスベル天童オルゴール博物館」があります。「アルスベル」は、優美

なる芸術を意味する造語です。この博物館には、19世紀初頭より20世紀にかけて、スイ

アンティーク・オルゴール  
の旋律が2人を祝福